

山元町内における生活支援体制整備事業取り組み状況

～太陽ニュータウン さんさんらじお体操（毎週火曜日午前 10 時 00-）

◆令和 4 年 4/1 から令和 5 年 2/28 まで開催数 42 回、参加のべ人数 406 名◆

【内 容】 交流の場・居場所づくり

「気軽にできる」をキーワードに、改めて何かを行うのではなく、日常生活の中で無理なく取り入れることができる「ラジオ体操」をみんなで集まって行うことで、自宅ではない「第 2.第 3 の居場所」づくりを行う。

【背 景】

「太陽ニュータウン」は、浅生原地区内では振興住宅（地）として売り出された地域で、地区外からの転入者が多い。そのため独自活動を行っている地域柄があり、地域交流が盛んとはいえない状況にある。

【実施までの流れ】

コロナ禍でご近所同士での交流がより少なくなりました。個々で散歩している方はいるが、集まって何かできたらという話を生活支援 CO が住民から聞いていた。

みんなで



公園で「ラジオ体操」がいいのではないかと案が出て実施したが、室外なので天候に左右されることが多く、1 回目の実施の後、雨による中止が続いた。

みんなで 協議 + 情報発信



結果①

生活支援 CO と以前関わりがあった、太陽ニュータウン内にある会社（テクノクリーン）社長から、「施設内一角を活用してください！」との申し入れがあり、ありがたうご厚意に甘えて活動を再開。



室内の場所を確保できたおかげもあり、天候に左右されない活動の継続が実現した。現状は週 1 回、毎週火曜日の 10 時から 30 分程度行っている。



結果②



住民の関係
がより深化



ラジオ体操だけでなく、ミニ勉強会も開始した。
（※車イス体験、介護保険制度について等々）

山元町内における生活支援体制整備事業取り組み状況

～真庭地区 きんようびのらじおたいそう(毎週金曜日午前9時30-)～

◆令和4年10/1から令和5年2/28まで開催数19回、参加のべ人数208名◆

【内容】 交流の場・居場所づくり

「気軽にできる」をキーワードに、改めて何かを行うのではなく、日常生活の中で無理なく取り入れることができる「ラジオ体操」をみんなで集まって行うことで、自宅ではない「第2.第3の居場所」づくりを行う。

【背景】

真庭地区は、地域支援ネットワーク以外の活動があまり見えてこない地区。
自主活動が少ない。だが、キーパーソンとなる地域住民、民生委員・児童委員がいる。

【実施までの流れ】

地域の集会所が旧分校(中学校)ということもあり、住宅と近くにある立地から、何かできないかという話し合いが生活支援CO内で行われた。

毎回6名から13名の方が集まり活動中!地域内で行われている他の活動が少しずつ分かってきている。

わかったこと

生活支援COが知らなかっただけで、週1.2回は真庭区民会館に集まりダンベルや体操を行うなど、活発に活動している。

今後は

無理なく継続しながらラジオ体操を拡充していく。



協議



結果
①



気軽にはじめられるようなもので、やってみよう!ということでアイデア出しを行う。無理なく高齢者でもできること、ということで最終的に「ラジオ体操」に決定。

実践



民生委員を中心として高齢者に声掛けをする。また、自ら参加を決めた方で最高齢は御年95歳の女性で、毎回ほぼ参加している。自宅から集会所までシルバーカーを押して来る。



山元町内における生活支援体制整備事業取り組み状況

～合戦原 にぎやかくらぶ(毎月第4金曜日午前10時00-)～

◆令和4年7/1から令和5年2/28まで開催数8回、参加のべ人数62名◆

【内容】 交流の場・居場所づくり

高齢単身者・不登校・ひきこもり・シングルマザーさまざまな理由があっても、集まれる場所づくりを目指して、何かからはじめたらいいのを探しながら、月1回からの活動を行う。ゆくゆくは食事の提供もできるようになることを目指す。

【背景】

合戦原地区は、合戦原福寿会という老人会があり、新会長を中心として活発に活動をしている。ただし、「老人会」に入りがらない方も一定数おり何かしらの支援が必要な状況であると区長からたびたび聞いていた。また、他の地区と違い地区の中に自治会がふたつある特殊な地域柄もある。

【実施までの流れ】

別件で関わりのあったボランティア①がたまたま合戦原住民ということもあり、区長から聞いていた地域の現状共有をしたところ「自分も何かをやりたいと考えていた」との返答があった。

輪投げやラジオ体操、ボーリングゲームなど思いつくものを次々チャレンジ!



そこで  

生活支援COは → →

こう動いた・・・

そこで

ボランティア①は → →

こう動いた・・・

つながりのあるボランティアさんたちに「手伝って!!」と言ってみた。すると! 3名の方が協力してくれることに!

とりあえず
何かやってみよう!



地元の知り合いに声をかけてみた
「何かやりたくない?」すると!
2名の方が協力を申し出る!

出だしは好調!参加者も10名前後集まりいい感じ。だが・・・次第に参加者も減り始めた。

そこで生活支援COは・・・

- 1 仙台傾聴ボラにヘルプ要請
→コラボ企画を行ってもらう。
- 2 他のボランティアの活動を目の当たりにした地元ボランティアは・・・
改めてモチベーションアップ!
自分たちにできる内容を模索し始めた。



無理なく活動を継続し、将来は地域食堂を目指していく。

山元町内における生活支援体制整備事業取り組み状況

～笠野地区 ほっこりかさのかふえ(毎月第4木曜日午前10時00～)～

◆令和4年4/1から令和5年2/28まで開催数10回、参加のべ人数72名◆

【背景】

東日本大震災後、笠野地区に居住している住民は18世帯となった。ほとんどが家族と同居している高齢者であるが、日中一人で過ごしている方も

も多い。また地域が沿岸部ということもあり被害が甚大だったために、みんなで集まって何かをするという活動もなくなってしまっている。フレイル

【内容】 交流の場・居場所づくり

プレハブの集会所を軸として、定期的集まる場を創出。コミュニティの構築、継続、居場所づくりを推進する。

【実施までの流れ】

今まで積極的に地域イベントをしていた「すみれ会」がなくなり、定期的に活動する団体がなくなってしまった。理由としては、被災したことにより他地区に転居した方たちが主メンバーとして運営していたため。自治会の役員もサロン運営のノウハウはなく、「何かやりたいが何をやったら良いのか分からない」と困っていたことを情報共有会で知る。

そこで

社協で養成し活動していたボランティアグループ
「みみをすませば」メンバーに相談!

月1回程度ならできる!との返事をもらう。

すると → →自治会メンバーが自力でサロンを運営できるようになるまで、「みみをすませば」メンバーがサロンを継続運営していくことに。

とりあえず
やってみよう!!



はじめは室内でサロンを開催していたが、次第に室外でグランドゴルフが自主的にはじまる。現在は室内でもスカットボールや輪投げもはじまる。



今後は?



現在開催されている「ほっこりかさのかふえ」がボランティア運営から自治会自主運営へと移行できるように支援を継続していく。

山元町内における生活支援体制整備事業取り組み状況

～あっぷるサロン桜塚 in 合戦原桜塚集会所（毎月第 2.4 月曜日午前 10 時 00-）～

◆令和 4 年 4/1 から令和 5 年 2/28 まで開催数 22 回、参加のべ人数 258 名◆

【内 容】 交流の場・居場所づくり

ひとり暮らし高齢者が多い公営住宅で集会所も開放されている時が少ない。日中でも閑散としている状況。定期的にサロンを開催することで、コミュニティ機能の強化や、隣接した既存の地域コミュニティとの融合を促進する。

【背 景】 高齢化率が高い。様々な仮設住宅からの寄せ集め。集会所もあるがほぼ施錠され使っていない状況。自治会も公営住宅と自立再建世帯がミックスされており、「自分たちでどうにかしなくては」という気持ちに温度差がある。また「合戦原」という地域に 2 つの自治会が存在するという特殊な環境下での自治会運営ということ、NPO 団体が独自支援を展開していることもあり、今後の支援について調整していく必要がある。

【実施までの流れ】

個別訪問中・・・

「1 日誰とも会話をしない」

「(外出しないので)体力が落ちてきた」等の話を聞く事が多くあった。自治会役員は働いてくる方がほとんどを占め、日中の活動を行うことは難しい現状。



桜塚自治会役員にも伝えてみるが「人手が足りない」との返答。

※役員はみんな働いている。



なのでつないでみた

お元気支援ボランティア「みみをすませば」養成講座を受講した方たちにつなぐ。

→「あっぷるサロン桜塚」が誕生!!

結果

月 2 回のサロンを継続している。

後日談:ボランティアが月 2 回(第 2.4)開催してくれているからと、自治会スタッフの 1 名が残りの 2 回(第 1.3)を担当し、サロンは毎週開催されている状況である。